ストーリー シート

「本の力を、生きる力に。」
難民キャンプで絵本に出会った3人のストーリー

シャンティ国際ボランティア会
Shanti Volunteer Assoc.

ミャンマー・ビルマ難民キャンプ

ミャンマーとタイの国境沿いには、紛争や迫害から逃れて祖国ミャンマーからタイ側に逃れてきた人たちが暮らす難民キャンプがあります。キャンプが設立されたのは1984年ですが、現在も9つの難民キャンプに約9万人以上が暮らしています。その多くはカレン族をはじめとする少数民族です。人々は難民キャンプを出て他の国で新たな生活をすることもできず、家も仕事もない祖国ミャンマーにも今はまだ帰還できない、と将来への不安を抱えています。

この難民キャンプに、シャンティ国際ボランティア会が運営する図書館があり、日本から絵本を届けています。この日本の絵本には、難民の人たちが読めるように、母国語であるカレン語や、祖国ミャンマーの公用語であるビルマ語の翻訳シールが貼られています。

① タ・ティさんのストーリー

難民キャンプ内にある図書館で、穏やかなお母さんのような眼差しで本棚に絵本を整理して並べる図書館員のタ・ティさん。タ・ティさんは戦火を逃れ、2007年にキャンプにたどり着きました。容易にキャンプの外に出ることもできない制限の多い暮らしの中で、やがて図書館で本に出会いました。

タ・ティさんは「キャンプで暮らす子どもたちに、絵本は外の世界のことを教えてくれます」と言います。絵本にはキャンプの中にはない乗り物や動物や食べ物や職業など、たくさんのことが描かれています。
図書館では読み聞かせの会を開いていて、ある日、たくさんの子どもたちを前に、日本から届いた『おおきなかぶ』の絵本の読み聞かせをしました。
「おはなしが始まると子どもたちはすぐに夢中になるわ。日頃の不安や恐れの気持ちがどこかへ行ってしまうみたい。私はその表情を見るのが何よりうれしいの。」とタ・ティさんは言います。
かぶを引き抜くシーンでは、子どもたちがおばあさんや孫、犬、猫、ねずみの役になり、おじいさん役のタ・ティさんの後ろに並び、『うんとこしょ、どっこいしょ』と、読み聞かせを聞いているみんなと一緒に声を出しながら、力を合わせてかぶを抜きました。「抜けたね！」と子どもたちは嬉しそうに、少し興奮しながら手をたたいて、おはなし会が終わりました。タ・ティさんは、おはなしが持つ力をかみしめながら言います、
「絵本はいつも私たちを癒してくれます。」

写真掲載絵本：「おおきなかぶ」福音館書店

②　エッ・ブルー・トー君のストーリー

難民キャンプ内にある小学校で同級生と一緒に勉強に励むエッ・ブルー・トー君は、9時から3時までの授業が終わると、毎日図書館に行きます。「ここにある本を全部読みたいんだ」と、何冊か絵本を選んで手に取りました。エッ・ブルー・トー君は難民キャンプで生まれ育ち、キャンプの外に出たことはありません。

『ねずみくんおおきくなったらなにになる？』の絵本を手に取ると、「僕の好きな絵本。ネズミくんには夢があってね、歯医者さんになって自分より大きな動物の歯を治すんだ。夢は叶うんだって思ったよ。」と話してくれました。絵本の主人公に自分を重ねて想像を膨らませて、絵本から何かを感じて学びと自信を得たような顔つきです。

写真掲載絵本：「ねずみくん おおきくなったら なにになる？」ポプラ社

③　マー・ジーさんのストーリー

「私は読み書きができないから苦労ばかりしてきたわ。もし読み書きができていたら違った人生だったでしょうね。標識も読めるし、行きたい場所へ行けたはずね」と語るマー・ジーさんは、ミャンマーの村から逃げる時に必死に夫の腕をつかんで、逸れて路頭に迷わないように、命からがら難民キャンプにたどり着きました。

マー・ジーさんの日常は、配給で得た食料を使って家族のごはんを作り、井戸で洗濯物を洗い、箒で家を掃除して、家事を繰り返す毎日です。自ら新聞や本で情報を得たり、慣れない物を使って新しいことに挑戦したりはできません。

ある日、家では娘が図書館から借りた絵本を読んでいました。その傍らで、マー・ジーさんは洗濯物を干していました。絵本を読んでいる娘の横に座り、「何の絵本を読んでいるの？また読んで聞かせてくれるかい？」と聞くと、娘は『さよならまたね』の絵本を、文字の読めないお母さんにいつものように読んで聞かせはじめました。「・・・、おしまい」読み終わると、マー・ジーさんは「ありがとうね」と言って娘の頭をやさしくなでました。娘ははにかんでお母さんの顔をちらりと見ました。

「娘は図書館に出会って絵本を読めるようになったの」と嬉しそうに話すマー・ジーさんは最後に、「娘には私よりもっともっと良い人生をおくってほしいわ」とつぶやきました。

写真掲載絵本：「さよならまたね」ひさかたチャイルド

本の力を、生きる力に。

シャンティは35年にわたって、アジアの各地に絵本を届けて来ました。

ボランティアの手によって、現地のことばが貼られた絵本。全国からシャンティの事務所に集められます。その数は、年間でおよそ１万8000冊。毎年、たくさんの人の手を渡り、海を超え、各地へ届けられています。

絵本を通して、文字を覚えることができます。

先人の知恵や歴史を学ぶことができます。

外の世界へ、視野を広げることができます。

あなたの届ける絵本が、彼らの人生をたしかに支えています。

写真掲載絵本：「ぐりとぐら」福音館書店
「うずらちゃんのたからもの」福音館書店

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ

シャンティ国際ボランティア会
Shanti Volunteer Assoc.

★難民キャンプでの言葉

少数民族のカレン族が生活する難民キャンプではカレン語という言葉を使っています。カレン語のあいさつを学んでみましょう。

● こんにちは
ゴーラーゲ

ဂျိုးလားအဂျု

● ありがとう
ターブルッ

တာ်ဘျုး

● さようなら
ティーロッサッラキ

ထံဉ်လိာ်သးလၢခံ

● お元気ですか？
オチュアー？

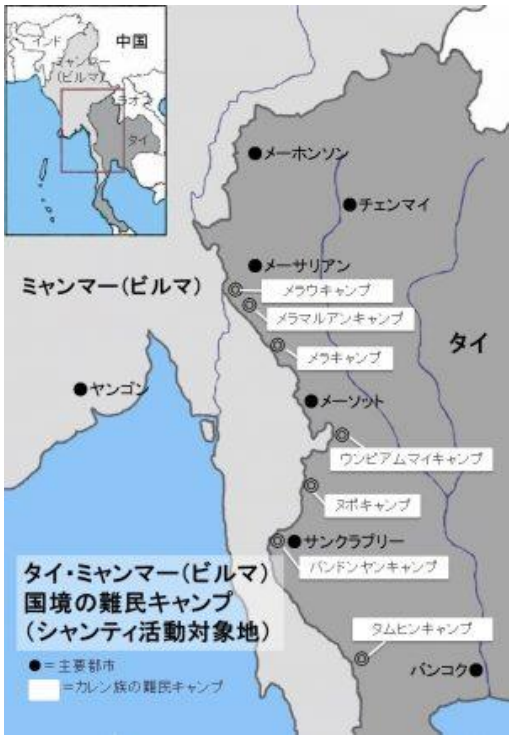
အိဉ်ဆူဉ်စါ

★ 難民キャンプってどんなところ？

● 難民ってどんな人？
難民とは、自分の命を守るために、自分の国を離れ、他の国に逃げざるを得ない人たちです。

● 難民キャンプとは？
難民たちが集まって生活しているところ。タイには、ミャンマーとの国境沿いに9つのキャンプがあり、ミャンマーから逃げてきた人たちが多く生活しています。

● なぜ難民キャンプができたのか？
ミャンマーにはたくさんの少数民族がいます。ミャンマーの少数民族と政府は対立してきました。自分の命や家族を守るためにミャンマーからタイに逃げる少数民族の人がでて、難民キャンプができました。キャンプができてから30年以上がたった今でも、9万人以上の人がキャンプで生活しています。



タイとミャンマーの国境沿いにあります。

★どんな生活をしているのか？

● 子どもたちは？
子どもたちは朝学校へ行き、午後３時には家に帰ります。放課後は外で遊んだり、図書館で絵本を読んだりします。

● 大人は？
大人が働ける場所は少ないです。職業学校で語学や裁縫を習う人もいますが、ほとんどの大人は仕事をせず、家の周辺で１日過ごしています。

★生活環境は？

● どんな家に住んでいるのか？
家は配給される竹や葉を使って自分たちで建てます。難民キャンプは家が集まっていて、燃えやすい素材でできているため、火事などの災害に弱いです。

● インターネットは使えない
インターネットはタイ政府から禁止されています。掲示板や、図書館の本や新聞を読んだりして情報を得ています。

★食べ物は？

● 民族によって異なる
難民キャンプにはいろいろな民族の人がいます。民族によって食べるものがちがいます。

● 配給
難民キャンプでは食べ物は配給されます。お店もあります。
米、大豆、魚のペースト、砂糖、乾燥トウガラシ、塩、油などは配給されます。肉や野菜を買って料理を作ります。主食はお米です。

★難民キャンプの中の図書館

● コミュニティ図書館
子どもから大人まで、たくさんの人が本を読みに訪れます。紙芝居や絵本の読み聞かせ、お絵かきやゲームなど、子どもたちが楽しめる活動をたくさん行っています。

● 移動図書館
難民キャンプは広いので、遠い学校でも図書館を利用できるように、保育所や小学校、地域の公民館などで、移動図書館活動を行っています。

★学校はどのような感じか？

● 難民キャンプの中の学校
難民キャンプにも、幼稚園、小学校、中学校、高校があります。

● 教科
小学校では、英語、カレン語、ビルマ語、地理、算数、保健などを学ぶことができます。

● 職業学校
大人は学校の先生になるための勉強をしたり、働くために農業や裁縫を習ったりすることもできます。

★水はどうしている？

● 水道はない
難民キャンプには水道がありません。みんなで使う水汲み場があり、そこでポリタンクに水を入れて運びます。

● 火事防止のビニール袋
キャンプは家がたくさん並んでいるので、火事がおきると火が広がりやすいです。そのため、家の前にビニール袋に水を入れたものをぶら下げて、対策をしています。